

新しい図書学 第3回

報告します!「新しい図書館学」
【講座のコンセプト】
毎回様々な講師を迎え、図書館員だけでなく利用者も一緒にいろいろな立場から図書館のこれからについて考える、講義と対話による参加型講座です。

第3回「ビッグイシュー日本の佐野未来さんと考えよう! 図書館にできること」(9月23日開催)

市民の自立を支援する情報機関である図書館はホームレス問題に何ができるか、雑誌ビッグイシューのしくみや、ホームレス内外事情、若年化傾向の原因、海外図書館事例などを学び、様々な角度からの提案を参加者全員で考えました。

VOICE 参加者の声

- 「これこそ図書館の新しい役割。ぜひ続けて欲しい。」
- 「講師の話と合わせて 職場とは異なる人の意見も聞けて有意義。」
- 「これまでにないテーマを取り上げていて共鳴できた。」
- 「講座で得た視点と発想を仕事に活かしたい。」

次回11月11日(日)のテーマは「これからの図書館員くわしくは中面を。」

Condense NIPPON 和の貴重書&洋書展示中!

ちりめん本の公開イベント&セミナー 参加無料

12月末までの毎週日曜日、ちりめん本の複製本を手にとってご覧いただけます。ふわっとしっとり、独特の手触りとともに明治時代の書物を味わってください。

■日時:毎週日曜日(最終日は12/23) 14:00~15:00
■会場:3階エレベータ前
【解説セミナー】10/28(日)、11/25(日)、12/16(日)
講師:新田 勇(雄松堂書店 古書事業部 部長)

★注目のちりめん本
小泉八雲による『日本昔噺』
Japanese Fairy Tales - Patrick Lafcadio Hearn ver.
日本の昔話を集め、文学の素材とした小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)の作品を絵本にしたちりめん本は独特の魅力があります。『ちんちん小袴』『お団子をなくしたおばあさん』など5冊を展示中。

現在行なっている展示

| | | |
|--|---|---------------------------------------|
| 1周年記念展示 【Condense NIPPON】 | 1F エレベータ前 “花と風景から見る明治・大正の面影” | 3F アート情報支援コーナー “和と洋の新着本と小泉八雲ちりめん本” |
| オンパレードゾーン ■メイン展示▶『UPDATE-ビジネスや仕事に役立つ時事ネタ欄』■セクション展示▶『データベース-JRS経営情報サービス』『日比谷カレッジの学びを深める』 | 2F パールガラスケース “訪日外国人の視点から見る「日本」” | 3F エレベータ前 “ちりめん本 日本昔噺シリーズ” |
| グリーンゾーン ■メイン展示▶『苺きのこ菌-日本におけるきのこのかわり』■セクション展示▶『世界のミステリー紀行 古代文明』 | ブルーゾーン ■メイン展示▶『「ちよカル」ちよだカルチャーガイドAREA3:丸の内・日比谷・永田町・霞ヶ関エリア』■セクション展示▶『和のこころ』『LiteraryAward part9.全米図書賞/part10.岸田國士戯曲賞』■エレベータ前▶『文学講演会「日比谷×文学×図書館」』 | |

ミ 特別研究室

シーボルトが見た江戸名所
PH.FR.VON SIEBOLD
『Nippon. Archiv zur Beschreibung von Japan 1』(1897年)
教科書でおなじみ、シーボルト(1796-1866)の『日本』は日本の地理・歴史・政治・経済・文化などを詳しく紹介しています。この挿絵は永代橋と江戸の町の眺めを描いたものです。木場と日本橋を結ぶ永代橋は往来も多く、交通の要衝であったことが窺えます。

図書部門 pick up

開館1周年記念文学講演会
作家が語る「日比谷×文学×図書館」

三人三様の文学講演は、いつもは本でしか出会えない作家の言葉を直接聴ける貴重な機会です。是非、あわせてご著書もお楽しみください。

3人の作家と著書の紹介

作家・阿刀田高
PROFILE
1935年、東京生まれ。早稲田大学文学部仏文科卒。国立国会図書館に司書として勤務しながら執筆を続け、1978年『冷蔵庫より愛をこめて』で作家デビュー。1979年『来訪者』で日本推理作家協会賞、短編集『ナポレオン狂』で直木賞を受賞。1995年『新トロイア物語』で吉川英治文学賞を受賞。2003年紫綬褒章受賞。小説、翻訳のほか、世界各国の古典や神話をわかりやすく読み解いた随筆も人気が高い。

▲『日本語の冒険』角川書店

作家・川本三郎
PROFILE
1944年、東京生まれ。東京大学文学部卒。『週刊朝日』『朝日ジャーナル』の記者を経て、作家・評論活動に入る。1997年『荷風と東京断腸亭日乗』私註(都市出版)で読売文学賞、2003年『林美美子の昭和』(新書館)で毎日出版文化賞、桑原武夫文学賞を受賞。2012年『白秋望景』(新書館)で伊藤整文学賞評論部門を受賞。自身の体験をもとにして書いた小説『マイ・バック・ページ』(平凡社)は2011年に映画化。

▲『それぞれの東京』淡交社

評論家・坪内祐三
PROFILE
1958年、東京生まれ。早稲田大学文学部卒、同大学院修士課程修了。月刊誌『東京人』編集部を経て、エッセイ、書評などの執筆活動に入る。明治・大正の文学、アメリカ文学を研究。編書『明治の文学』全25巻(筑摩書房)の出版により明治本ブームが起きる。2001年『慶応三年生まれ七人の旋毛曲り-漱石・外骨・熊楠・露伴・子規・紅葉・緑雨とその時代』(マガジンハウス)で第十七回講談社エッセイ賞を受賞。

▲『それぞれの東京』淡交社

作家・阿刀田高
PROFILE
1935年、東京生まれ。早稲田大学文学部仏文科卒。国立国会図書館に司書として勤務しながら執筆を続け、1978年『冷蔵庫より愛をこめて』で作家デビュー。1979年『来訪者』で日本推理作家協会賞、短編集『ナポレオン狂』で直木賞を受賞。1995年『新トロイア物語』で吉川英治文学賞を受賞。2003年紫綬褒章受賞。小説、翻訳のほか、世界各国の古典や神話をわかりやすく読み解いた随筆も人気が高い。

▲『明治の文学』(北村透谷) 筑摩書房

■千代田区内の図書館で借りることができる著書
『日本語の冒険』(角川書店)、『日本語とせとら』(角川書店)、『イソップ物語を知っていますか』(新潮社)、『日本語を書く作法・読む作法』(時事通信出版局)

■千代田区内の図書館で借りることができる著書
『明治の文学』(筑摩書房)、『東京タワーならこう言うぜ』(幻戯書房)、『書中日記』(本の雑誌社)、『近代日本文学』の誕生』(PHP研究所)等。

■千代田区内の図書館で借りることができる著書
『それぞれの東京』(淡交社)、『マイ・バック・ページ』(河出書房新社)、『郊外の文学誌』(岩波書店)、『いまも、君を想う』(新潮社)等。

企画展示「世界に伝えられた近代日本-開国から昭和戦前まで-」
内田嘉吉文庫の蔵書を中心に、開国から昭和戦前期にかけて国内外で発行された、日本を世界に伝えた様々な本を紹介します。(10月16日(火)~12月28日(金))

展示解説セミナー「世界に伝えられた近代日本-開国から昭和戦前まで-」
特別研究室ナビゲーターが展示中の本について5回に分けて解説します。

■日時:10月27日(土) 幕末来航篇 ベリー艦隊 絵師が描いた日本の姿
11月4日(日) 幕末開国篇 遣米使節 日本を伝えたサムライたち
11月17日(土) 明治開化篇 モース 日本文化を愛した外国人
いずれの回も14:00~15:00 ■定員:10名(先着順) ■参加費:500円

千代田区立日比谷図書文化館 広報誌

【開館1周年記念文学講演会】

開館1周年にあたる11月初めより、千代田区立日比谷図書文化館に3人の作家をお呼びし、日比谷、本、文豪、そして、図書館について語っていただく文学講演会を行います。

現在、日比谷図書文化館では、あらゆる時代・ジャンルの日本を凝縮した「Condense NIPPON」をテーマに和書・洋書を新たに購入し、展示しています。また、明治・大正時代の古書を所蔵し、実際に手にとってご覧いただけることも当館の特徴の一つです。開館1周年を迎えるにあたり、「本」の魅力に立ち返り、「言葉」について皆様と考える機会を設けたいと願い、図書館にこだわりのある3人の作家に講演をお願いしました。当館の建つ日比谷についてのお話も交え、この秋、過去と現在とが交差するような、「本」をめぐる時間をお届けします。

「描かれた日比谷-文学と映画」
「東京」を語り、「TOKYO」を書く川本氏に、日比谷が登場する文学、映画などについて語っていただきます。週2~3回は図書館に通うという川本氏ならではの図書館にまつわる体験談も楽しみにしてください。

「明治・大正・昭和の文豪と日比谷」
日本の近代文学についての造詣が深く、書評にも定評のある坪内氏の視点で、日比谷にまつわる文豪たちについて語っていただきます。夏目漱石、谷崎潤一郎、永井荷風、北村透谷など身近な作家たちの歩いた日比谷を感じてください。

「図書館で言葉を磨く」
今、図書館で言葉は磨けるのか?現代の図書館の役割とは?国立国会図書館の司書を経て作家となり、今春、山梨県立図書館長に就任なさった阿刀田氏に、図書館で知識を深め、自分ならではの言葉を見つける方法を教えてください。

開館1周年記念 文学講演会
作家が語る「日比谷×文学×図書館」

■時間:14:00~15:30(13:30より受付開始)
■会場:日比谷図書文化館 地下1階
日比谷コンベンションホール(大ホール)
■参加費:各回1000円(千代田区民500円)
■お申込み方法:日比谷図書文化館1階受付、もしくは電話(03-3502-3340)、Eメール(college@hibiyal.jp)にて。講座名、お名前(ふりがな)、電話番号をお伝えください。

▲絵:「鹿鳴館」4階・特別研究室所蔵「東京真畫名所図解」(井上安治・平凡社・1968)より
明治時代の社交場・鹿鳴館はかつて日比谷にあったのをご存知ですか。住所でいえば、東京府麹町区内幸町。帝国ホテルの隣りに位置し、多くの外国人や政治家、上流夫人が集まり、国際的な交流の場として賑わいました。

calendar 開館時間:平日10時~22時、土曜10時~19時、日祝10時~17時 休館日

| | |
|----------------------|----------------------|
| 2012年 11月 | 2012年 12月 |
| 日 月 火 水 木 金 土 | 日 月 火 水 木 金 土 |
| 4 5 6 7 8 9 10 | 2 3 4 5 6 7 8 |
| 11 12 13 14 15 16 17 | 9 10 11 12 13 14 15 |
| 18 19 20 21 22 23 24 | 16 17 18 19 20 21 22 |
| 25 26 27 28 29 30 | 23 24 25 26 27 28 29 |
| | 30 31 |

■お問合せ先:千代田区立日比谷図書文化館
〒100-0012 千代田区日比谷公園1-4 TEL:施設代表 03-3502-3340
図書総合カウンター 03-3502-3343 URL:http://hibiyal.jp

access

東京メトロ
●千代田線
●日比谷線
●丸の内線
「霞ヶ関」徒歩5分
JR「新橋」徒歩10分
都営地下鉄
●三田線
「内幸町」徒歩3分
駐車場
当施設に駐車場はございません。公共機関をご利用ください。

11・12月の講座

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

11/1 (木) 「日本歴史 私の最新講義」刊行記念講演会
第2回 日本史の新しい見かた、捉え方
 中世人が獲得した風景、身体、作法の三つの「思潮」。その後の社会、政治、文化などに大きな影響を与え、日本人のものの見方や考え方を規定していった。これらを踏まえ、新しい日本史の見方、捉え方を中世史の立場から提案する。(主催：(株)敬文舎)
 ■日時：11月1日(木)14:00～16:00(13:30より受付)
 ■講師：五味 文彦(放送大学教授)
 ■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 ■定員：200名 ■参加費：2000円

11/3 (土) キャリア・コンサルタント向け
就職支援のための情報収集・提供法
 就職を希望される方に企業・業界情報を提供する方法を学ぶセミナーです。図書館資料やデータベース、インターネット上の情報を活用して就職活動する人への支援法を学びます。(主催：感動コミュニケーションズ有限責任事業組合)
 ■日時：11月3日(土)11:00～16:30(10:30より受付)
 ■会場：4階 セミナールームA
 ■講師：小松崎 浩司(キャリア・コンサルタント)、望月 実(公認会計士)
 ■定員：24名 ■参加費：5000円

11/6 (火)ほか 日本歴史文化講座(ヒスカル)
日本の近代①明治再考
 近代日本の形成過程を、近代史研究者5人がそれぞれの専門分野を中心にわかりやすく詳細に解説します。近代化とは何か、明治時代とはどんな時代だったのか、政治・社会を中心にお話しします。(主催：(株)敬文舎)
 ■日時：11月6日(火)『元老政治の成立と展開 講師：荒船 俊太郎
 11月20日(火) 初期社会主義 講師：林 彰
 12月4日(火) 新聞と社会 講師：藤野 裕子
 12月18日(火) 都市の暴動 講師：藤野 裕子
 いずれも14:00～16:00(13:30より受付)
 ■会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
 ■定員：60名 ■参加費：各回 2000円

11/7 (水)ほか 日本歴史文化講座(ヒスカル)
日本の考古①縄文、弥生時代
 国立歴史民俗博物館勤務の経験を持ち、現在も精力的に発掘を続ける講師が、日本の縄文時代と弥生時代、この1万数千年にわたる時代を、それぞれの時代の社会構造を中心に最新情報を交えて解説します。(主催：(株)敬文舎)
 ■日時：11月7日(水) 縄文農耕と弥生農耕
 11月21日(水) 新弥生紀行—私がつくった歴史展示—
 12月5日(水) 石器から鉄器へ
 12月19日(水) 王墓誕生—弥生権力論—
 いずれも14:00～16:00(13:30より受付)
 ■会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
 ■講師：設楽 博巳(東京大学)
 ■定員：60名 ■参加費：各回 2000円


▶参加申込：電話(03-3502-3340)またはEメール(college@hibiyal.jp)にて、講座名、お名前(よみな)、お電話番号をご連絡ください。当館1階の受付でもご予約を承ります。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。千代田区民の方は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

11/8 (木) 江戸歴史講座 第13回 出光美術館展覧会連携企画
“酒井抱一”江戸で活躍した琳派絵師
 酒井抱一(1761～1828)は、京の光悦・宗達・光琳らに継承された優美な琳派芸術を、江戸の地に再興した“江戸琳派”の祖として知られます。展示構成・テーマに新たな話題を加えながら、酒井抱一とその高弟・鈴木其一を中心とした江戸琳派の粋美をご紹介します。


 ■日時：11月8日(木) 19:00～20:30(18:30より受付)
 ■会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
 ■講師：宗像 晋作(出光美術館学芸員)
 ■定員：60名 ■参加費：1000円(千代田区民は500円)


11/9 (金) 第7回 千代田区民講座
西堀榮三郎の探検人生に学ぶ 人生にロマンを求めて
 科学技術者である一方、第一次南極観測隊の副隊長兼越冬隊長や日本山岳協会会長を務めた登山家、西堀榮三郎氏。息子の西堀峯夫氏が父から受けついで好奇心、探究心を持ち続ける事の大切さを語ります。
 ■日時：11月9日(金)19:00～20:30(18:30より受付)
 ■会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
 ■講師：西堀 峯夫(理学博士)
 ■定員：60名 ■参加費：無料

11/10 (土) 未来のパートナーシップを考える。
どうなる、仕事、結婚、妊娠、子育て
 少子高齢化の要因は、未婚、晩婚化。なぜ日本は次世代を作れない国になったのか?その原因は働き方と婚姻制度の硬直化にあるのではないかと女性の働き方と結婚、出産を通して、未来の家族、パートナーシップの在り方を考えます。(主催：世界連邦21世紀フォーラム)
 ■日時：11月10日(土)14:00～16:30(13:30より受付)
 ■会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
 ■講師：白河 桃子(少子化ジャーナリスト、作家)、治部 れんげ(経済記者)
 ■定員：60名 ■参加費：3000円

11/11 (日) 新しい図書館学 第4回
柳与志夫さんと考えよう!これからの「図書館員」
 これからの「図書館員」にはどんな人材が求められるのか?呼び方も含め、講師と参加者全員で考えます。さまざまな立場からのご意見をお聞かせください。

 ■日時：11月11日(日)13:30～16:00(13:00より受付)
 ■会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
 ■講師：柳 与志夫(国立国会図書館)
 ■定員：60名
 ■参加費：一般2000円、学生1000円
 ※事前に簡単な質問があるため、メールにてお申し込下さい。
 参加申込締切りは11月4日(日)です。

11/17 (土) 酪農学園大学公開講座
命と絆のシンポジウム
 人間と動物の共存という視点から、地球環境や東日本大震災復興について考えるシンポジウム。(主催：酪農学園大学)
 基調講演「命を見つめる」坂東 元(旭山動物園園長)
 講演1「日常生活のための放射線と放射能の知識」遠藤 大二(酪農学園大学獣医学群 教授)
 講演2「警戒区域内における家畜への対応」森田 茂(酪農学園大学農食環境学 教授)
 講演3「被災地復興を目的とした環境アセスメント支援プロジェクト」岩野 英知(酪農学園大学獣医学部 准教授)
 ■日時：11月17日(土)13:00～16:15(12:30より受付)
 ■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 ■定員：150名 ■参加費：無料

11/21 (水) 霞が関の歴史と建築を訪ねて
 明治以降の霞ヶ関官庁街の歴史についての講演の後、その面影を訪ねて実際に街を歩く見学会を行います。(主催：NPO法人「建築から社会に貢献する会」)

 ■日時：11月21日(水)講演会10:15～11:45(10:00受付開始)
 見学会13:15～15:30(13:00受付開始)(見学コース：文部科学省～首相官邸～議員会館～憲政記念館～外務省～法務省赤レンガ棟～桜田門)
 ■会場：4階スタジオプラス(小ホール)
 ■講師：宮田 章(元建設大臣官房審議官) ■定員：60名
 ■参加費：講演会・見学会それぞれ500円(どちらかのみ参加可)

11/22 (木) 白井英治レクチャー＆コンサート
ヴァイオリンと私
 ～「東洋のストラディヴァリ」陳昌鉉(チン チャンヒョン)氏との出会い～
 ドラマ化・漫画化もされた『海峡を渡るバイオリン』(河出書房新社)でも知られる、今年5月に逝去されたヴァイオリン製作家 陳昌鉉氏。ヴァイオリン奏者の白井氏が、陳氏の紹介や楽器の構造などのお話を交え、陳氏1961年製作のヴァイオリンで想い出の楽曲をお届けします。

 ■日時：11月22日(木)18:30～20:30(18:00より受付)
 ■会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
 ■出演：白井 英治(東邦音楽大学特任准教授)
 ■定員：60名 ■参加費：1500円(全席自由)


11/23 (金) 日比谷朗読サロン ～紅葉の中で聴く文学～
 祝日の午後のひとつときに、情感ある語りが定評の「こうぼこの会」の朗読会をお楽しみください。
 ■プログラム：オー・ヘンリー『よみがえった改心』、川上弘美『冬一日』、森鷗外『高瀬舟』
 ■日時：11月23日(金) 14:00～15:45(13:30より受付)
 ■会場：4階 スタジオプラス(小ホール) ■定員：40名 ■参加費：無料

11/26 (月) シンポジウム「本との出会い」
 ～YUSHODO FORUM 2012～
 デジタル化の時代、新しいツールの普及によって読書の方法が多様化し、「本を読む」という意味も変わりつつあります。各界を代表する愛書家・読書家をお招きし、「本」との出会い、楽しみ方を語っていただきます。(主催：(株)雄松堂書店)


 ■日時：11月26日(月)16:00～18:00(15:30より受付)
 ■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 ■講師：高宮 利行(慶應義塾大学名誉教授—左写真)、樺山 紘一(印刷博物館館長・東京大学名誉教授)、長尾 真(京都大学名誉教授・前国立国会図書館長)、渡部 昇一(上智大学名誉教授) ■定員：200名 ■参加費：無料

11/28 (水) 千代田区民講座 音のサロン第2回
音と音楽～ハードとソフトの視点から
 ハイエンドオーディオでの音楽鑑賞を楽しみながら、レコードからCD・音楽配信へ移行してきた「ソフト」、蓄音機からデジタル機器に移行してきた「ハード」の歴史を解説します。
 ■日時：11月28日(水) 18:30～20:00(18:00より受付)
 ■会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
 ■講師：麻倉 怜士(デジタルメディア評論家)
 ■定員：60名 ■参加費：無料

11/30 (金)ほか 日比谷次世代寄席
 談話・落語・漫談界の若手ホープをお招きし、囃だけでなくレクチャーも行っていただくシリーズ講座。
立川志の吉 ～落語も読書も想像力～
 テレビ神奈川「キンシオ」の「隠居ペディア」で人気上昇中の若手落語家、立川志の吉さんをお迎えして、「読み聞かせ落語」など一味違う寄席を披露します。
 ■日時：11月30日(金)19:00～20:30(18:30より受付)
 ■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 ■定員：150名
 ■参加費：1500円(千代田区民1000円)




春風亭ぴっかり ～落語の歴史と落語家ライブ～
 今年のNHK新人演芸大賞落語部門の決勝に進出した実力とチャーミングさを兼ね備えた若手落語家、春風亭ぴっかりさんをお迎えして、落語の歴史や落語家の生活についてのお話と、元気いっぱいのお話を披露します。
 ■日時：12月14日(金)19:00～20:30(18:30より受付)
 ■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 ■定員：150名
 ■参加費：1500円(千代田区民1000円)



12/13 (木)ほか ドキュメンタリー映画「40万冊の図書」上映会
 1944年から45年にかけて、日比谷図書館は戦火を逃れるため40万冊の蔵書を疎開させました。図書館員や都立一中の生徒たちが奥多摩や埼玉県志木市に何度も運び、文化を守ったのです。この献身的な取組みを次世代に伝えるドキュメンタリー映画の上映会を行います。(主催：シネマボックス)
 ■日時：12月13日(木)、14日(金)①10:30～12:05、②13:00～14:35、③15:00～16:35
 12月15日(土)10:20～12:00
 ■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 ■定員：200名 ■参加費：1000円

東京文化財ウィーク2012千代田区実施講座・講演会
 都内で一斉に文化財を公開する「東京文化財ウィーク」が現在開催中です。千代田区でも、所蔵資料、および区内文化財、遺跡について各専門学芸員がわかりやすく解説する講座を実施します。
 ■日時：11月7日(水)18:00～20:00「文化財は語る—区内文化財の世界—」、11月21日(水)18:00～20:00「収蔵資料は語る—民俗資料の世界—」、12月5日(水)18:00～20:00「千代田区の遺跡—考古資料の世界—」
 ■会場：4階 セミナールーム ■定員：20名 ■参加費：200円
 <お申込み>往復はがきに下記事項を記載して、文化財事務室宛に送付ください。
 ①催事名称 ②郵便番号・住所 ③氏名(ふりがな) ④年齢 ⑤電話番号
 ※はがき1枚につき1講座1名分のお申込みとさせていただきます。定員を超えた場合は抽選となります。<問い合わせ先>〒100-0012千代田区日比谷公園1-4 日比谷図書文化館4F文化財事務室(TEL 03-3502-3348)

**「古文書塾“てらこや”」
 古文書を始めよう!～江戸歌舞伎の世界～**
 古文書塾“てらこや”は本邦初の古文書専門塾。初心者から経験者まで楽しみながら学習を進めていきます。今回は、2013年1月開講講座の中から、江戸歌舞伎の人気の秘密に迫る3つの体験講座をご用意いたしました。くずし字を学びながら、江戸歌舞伎の世界を楽しんでみませんか。(主催：小学館集英社プロダクション)
 ●12/8(土)14:00～15:30「絵と文字で楽しむ江戸歌舞伎」講師・埋忠美沙
 ●12/14(金)13:30～15:00「歌舞伎の舞台裏に迫る」講師・西田知己
 ●12/19(水)19:00～20:30「浮世絵を読む」講師・藤澤茜
 ■会場：4階 セミナールームB ■定員：20名 ■参加費：各回 1000円
 お申し込み電話番号：090-8741-0057(日・祝日除く10:00～17:30)

日比谷図書文化館開館1周年記念特別展
市川團十郎 荒事の世界

 歌舞伎界の名門 市川團十郎家と荒事(あらごと)に焦点をあて、実際に市川團十郎丈が舞台上で使用した「歌舞伎十八番」の衣裳や小道具、代々の團十郎の役者絵などの資料を展示し、その歴史と魅力を紹介いたします。
 ■期間：開催中～11月28日(水)(※11月19日(月)は休館日) 平日10:00～20:00 (土曜～19:00、日祝～17:00/入室は30分前まで)
 ■会場：日比谷図書文化館1階 特別展示室
 ■料金：一般300円、大学生・高校生200円(千代田区民・中学生以下、障害者手帳をお持ちの方および付き添いの方1名は無料)

1階ショップ&カフェからのお知らせ
「開館1周年」企画 クイズラリー 「ぐるり歌舞伎めぐり」実施中!
 各階で問題を解きながら「ぐるり」と館内を「めぐり」、蔵書や展示に触れるクイズラリーを実施中。参加された方には、もちろん館内のレストラン・カフェの飲食でご利用いただける「割引券」を進呈。さらに!抽選で「特別展ポスター」、「オリジナルポストカード」が当たります。オリジナルキャラクター「コン十郎」が目印!(11/28まで)
 オリジナルポストカードセット 9枚800円(税込)(1000セット限定販売)

